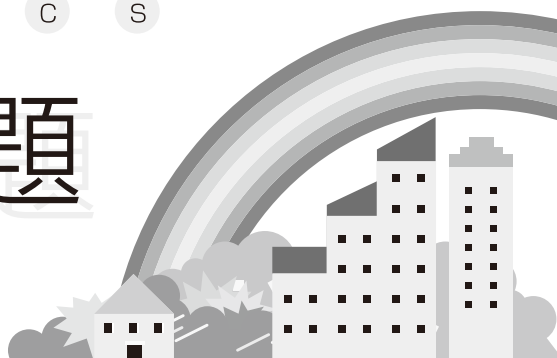


まちの話題



6月20日(木)

高浜市の伝統に灯りをともそう

高浜小学校で「鬼あかり」づくりが行われました



毎年恒例「秋の鬼みちまつり」で沿道を彩るランプシェード「鬼あかり」。今年は、市内小中学生、高浜高校生などにより2,000個以上の制作が予定されています。この日は高浜小学校6年生が、鬼師(※)の指導を受けながら制作に挑みました。瓦粘土の扱いに苦労しながらも、つのをつけたり、灯りとり穴の形を工夫したり。腹ばいになって顔を近づけ作業する姿も。真剣かつ楽しげな児童の姿に、受け継がれる高浜市の瓦文化を感じました。

※鬼師(おにし)…鬼瓦職人のこと



6月22日(土)

たくさんの光が飛び立つことを願って…
ホタル観賞会

4月21日に清水町の「神楽山遊歩道」の水路に、ヘイケボタルの幼虫を放流してから約2か月。自然の中で、ホタルの光や飛び立つ姿を一目見ようと、約400人が集まりました。

真っ暗な中で光を放つ姿を見つけると、子どもたちは一斉に駆け寄り「きれいだよ!」「結構明るいね!」と声をあげ、幻想的な光に見とれていました。会の方は「放流も遊歩道での観賞会も初めてのことで、ホタルが光を放ってくれるのか不安だったが、子どもたちにホタルの光を見せることができよかった。」と笑顔で話をしていました。

6月23日(日)

誰のロボットが早いかな?
親子で力を合わせて勝負!

飛翔(つばさ)の会の主催により「レスキューロボットグランプリ」が開催されました。参加者がみずから組み立てた、レスキュータイプのリモコンロボットを操作して障がい物乗り越え、フィールド内にあるカップを指定の場所まで運び出す技を競い合いました。一生懸命操作する子どもたちの横で、おうちの人も「右!」「アーム上げて!」と熱中していました。親子や地域の方たちとの絆が深まった一日でした。

